

[RS-Rより低車高をターゲットにした車高調が登場]

メインコンセプトはズバリ【限界まで落とせる】

↓L175Sムーヴでダウン量を検証

↓【ベーシック】を装着した状態



リア同様にフロントもタイヤ被りまではいかなかったが、全長調整式のためもう少し調整は効きそう。ちなみにアーチ高は約54cmだった。

↓ ノーマルの足まわりの状態



タイヤハウスの広い履行ムーブだけに、インナーまではっきり見えてしまう。ちなみに地上からフェンダーアーチ頂点までは約62.5cmだった。

検証したムーヴは乱人スタイルのハーフスポイラー装着、さらにタイヤサイズは165/40-16インチ。地面までのクリアランスを知りたい人は、その点をしっかり踏まえて見て欲しい。

今回はよく落ちると言われるタイヤハブまでの検証だが、リアはリム被りまで到達。上と同社従来までの主力ラインナップだった「ベーシック」のMAXダウン状態時を紹介しているが、タイヤ被り手前でストップ。そう考えればその威力はかなりのものと言える。

フロントリップから地面までは、大人男性の指がちょうど2本程度入った。ただしこの状態ではハンドルが切れないため、フェンダーのツメやインナーを加工するか、ホイールのオフセットを調整する(内側に入れられる状態なら入れ

↓【ブラック】を装着した状態



フロントはタイヤ被りには到達したものの、リムまでは届かず。ただ「あと5ミリほどは落とせる」との事だ。参考までにアーチ高は約51cm。

ダウン量は間違いなく社外車高調トップレベルの域(※) 必要がある点は注意。

また「ブラック」のラインナップにはMHワゴンR用も加わっているが、同社発表の数字ではフロントがマイナス80ミリ、リアが80ミリダウンとのこと。構造上、特に落とすにくいスズキ車の中では、落ちると言われる車高調の部類に間違いなく入ってくるレベルだ。

もともと軽自動車は、(メーカーによって違いはあれど)リアの構造上どうしてもローダウンしにくい。そのため社外のリアアクスルに交換する人がここ数年で増えてきている。とはいえ「アクスルは絶対にノーマルからいじりたくない。でも出来るだけ低車高に持っていきたい」という人もやはり多い。そういう人にとってこの「ブラック」は持つてこいの車高調と言えるだろう。



RS-R
Black★i

オールエスオール ブラック!

TEL:0120-826-644
URL: http://www.fcr.co.jp

価格:18万9000円
対応車種:MH系ワゴンR
L175系ムーヴ、L160系ムーヴ
開発予定:L350S系ワゴンR
L375S系ワゴンR、RS219セルブ



国産定まりメーカーのRS-Rより、新たな車高調「ブラック」が登場。メインコンセプトは低車高。詳細に関しては左ページで検証しているのでもっと知りたいのだが、純正よりもより、これまで同社Kカー用の主力商品だった「ベーシック」とダウン量を比べれば、その威力がよくわかる。「車高を最大に上げた時点で地上高9センチを確保できる設計」というメーカーサイドの言葉からも、その凄さが想像できよう。

「実際に『もつ』落とせる車高調」という声は多く、今回それには応えるべく開発しました。ただウチはタンバールメーカ「なので、ただ落とせるだけでなく、乗り心地の面にもしっかりとこだわって開発しています」。

全長調整式T-2000スプリング使用、36段階減衰力調整付き(ベスト「1」など、機能だけ見ると従来品と変わらないが、その中身は全く別もの。バネもショックも従来品から短くなり、それに見合った適切なバネレートと減衰力を高次元で確保。それにより「低車高だから乗り心地も悪い」と先入観を持って乗ってみると、意外と普通に乗れる。低車高街乗り派の人なら、購入時の選択に十分入れおかない商品だ。

右が純正のバネ、中央がベーシック(ベスト)用、そして左がブラック。いきなりこの差は驚異的。